

はじめに

清真学園野球部監督になりあっという間に21年が経ちました。私の自慢の野球部の大切な教え子達もこれまで200名を超えました。思い起こしてみますと、野球の技術だけでなく、学業との両立・人間関係などに悩みながら必死に頑張る姿、時には笑い、時には泣きなきながら学生生活に取り組んでいた頃の真剣な顔つきを今でも鮮明に覚えております。

この21年、一貫して『高校野球をやる上での目標は、甲子園出場。目的は、野球を通して立派な社会人になること』を掲げて活動してまいりました。練習日誌である「熱球ノート」は、現在70冊目に突入しております。一人ひとりの熱い思いが込められたノートは、時に現役選手にとって大きな道しるべとなり、卒業生にとっては青春の思い出の1ページとして大切に保管されています。私にとっても大切な指導書となっております。

現在、多くのOB・OGがこの野球部から巣立ち社会に出て活躍されております。今回、そのOB・OGの方々に『清真学園野球部を語る』という原稿を依頼したところ早速たくさんの方が届きました。

現役選手への激励はもちろんこれから高校野球をはじめの生徒や応援して下さる多くの方々にぜひお読みいただきたいと思い数回に分けて掲載いたします。本校野球部を知る機会にして頂ければ幸いです。

2016年2月

清真学園野球部監督

辻岡 敦

鈴木耕平（25期生）

2005年卒業

北海道大学～日本たばこ産業株式会社（JT）研究員

今でも一生青春していると断言できるくらいに、毎日の人生を楽しみ、充実して過ごしている。若いときに全力で取り組んだ経験から得られた青春の効果は、一生続くのではないかと思う。白球を追っていた頃から10数年たった今でも、豊かな感受性と、喜怒哀楽を共にした仲間、チャレンジ精神は、色褪せることがない。どこからともなく湧いてくるこの自信と原動力は、なぜだろう、と振り返ると、必ず清真野球部での経験に突き当たる。

楽しいだけではなく、辛い経験も沢山あった。練習、試合、日常生活において、出口が見えない事もあった。けれど、努力が報われる瞬間は、必ずやってくることも学んだ。道が開けたとき、進歩を感じたとき、仲間と一体感を感じたとき、なんと気持ちの高ぶることか。清真野球部には、人生を楽しむヒントがたくさんある。

ぜひ野球部の門を叩いてみてほしい。後輩の皆さんは、将来どのように清真野球部での経験を語るようになるのだろうか。ぜひとも、誇りあるプレーヤーの集う清真野球部において、全力疾走、全員野球に励み、日々の練習、試合、日常に一喜一憂し、その後も続く楽しい人生のヒントをつかんでほしい。

小島直人（28期生）

2008年卒業

一橋大学～竹中工務店

勝って泣くという体験をしたくありませんか？私は高校2年生の時に体験しました。秋季大会でシード校に勝利した瞬間でした。

「なぜ泣いたのだろうか？」たまに振り返る時があります。それは「本気で取り組んでいた」からだと思います。

毎日始発電車に乗って朝練をしました。体を大きくするため休み時間におにぎりを食べました。昼休みにバント練習もしました。全ては「勝ちたい、上手になりたい」という一心で本気で取り組んでいました。

また、社会人になった今も野球部の同級生と定期的集まるのですが、いつも高校時代の野球の話で盛り上がります。苦楽を共にし、同じ釜の飯を食った仲間なので一生の親友です。

「本気で取り組んでいたから、胸を張って語れる高校生活を得られた。」「本気で取り組んでいたから、一生の親友を得られた。」そんな風に感じます。

みなさんも高校時代にぜひ「何か本気で打ち込めること」を見つけてください。高校野球にはそれだけの価値があると思います！この文章を読んでくれた皆さんが、高校野球を選んでくれるのであれば、OBの一人としてこの上ない喜びです。

松田真由美 (24期生) 2004年卒業

茨城県立医療大学～県立病院 理学療法士

野球部は私の高校生活において、大切な居場所であり、the 青春時代!!のキラキラした思い出がたくさん詰まった場所です。今でも金属バットの音と部員のみんなの声が耳に焼き付いていて、ふと思い出すと、清々しい気分させてくれます。

野球のことなんて全く分からず入部してしまった私ですが、いつも全力で、時間を大切にやりくりしていて、それでもなかなか勝てなくて、ちょっとプレッシャーに弱い人もいて、ナイスプレーには親御さんも一緒に全員で喜んで…。頑張るみんなのそばで、その空気を感ずることができた野球部での時間は、本当に大切な思い出です。

清真野球部は、マネージャーを本当に大事にしてくれます。スコアリングもアナウンスもまともにできない私でしたが、部員のみんなはいつも感謝の気持ちを伝えてくれました。それと素敵な先生お二方。たくさん笑わせてもらい、いじってもらいました。そんな清真野球部の歴史がいつまでも続くことをOBとして心から願っています。みなさんぜひ野球グラウンドにいらしてください。

湯澤 崇 (28期生) 2008年卒業

神戸大学～千葉県庁 (健康福祉部医療整備課)

清真学園は進学校なので、他の強豪校と比べ、練習できる時間が限られています。その分、ただ指示された練習をこなすだけでなく、部員一人一人が何をすべきか考え、自主的に取り組む文化が根付いていると思います。恥ずかしながら、私は3年間でレギュラーになることができませんでした。しかし、代走やランナーコーチ等、チームに貢献できることを必死で考え取り組んだ姿勢を監督に評価していただいたことは、自分にとってかけがえのない自信になりましたし、社会人になった今、様々な場面でその経験が活かしていると改めて感じます。野球部で過ごす3年間は決して楽なものではありませんが、人間として大きく成長させてくれます。部活動をする中で勉強が疎かになる、という不安もあると思いますが、3年間野球部の練習をやりきった体力・気力があれば、後から何とでもなります(私も現役時代はほとんど勉強をせず、引退直後はE判定ばかりでしたが、最終的に第一志望の大学に合格することができました)。何より、仲間とひとつの目標に向けて努力し、泣いたり笑ったりできるのは、大人になってからはなかなかできない経験なので、部活動を通して皆さんがより充実した学生生活を送られるよう願っています。

石塚健太郎（34期生 主将） 2014年卒業

千葉大学 在学中（硬式野球部）

高校野球をやって得たものは一生付き合っていける仲間と何かをやり遂げるという力だ
と思う。

高校野球は2年半その中で合計5つの学年の人との繋がりができる。これだけ多くの人と
繋がれるのはすごく貴重なことだと思う。自分は今大学生だが、高校を卒業してみんな別々
の場所に住んでいても、遊びに行ったり食事に行ったりと仲良くしているし、これからは
死ぬまでこの関係は続くと思う。人との繋がりはすごく大事だと思うし、部活をやってい
なかったらこの関係は築くことはできなかったと思う。

高校野球は楽しいことばかりではなかった。朝は早いし、練習もきつい時だってあるし、
試合でミスをしたらおこられたりもするし。しかし辛いことがありながらも2年半続ける、
ここにすごく意味があると思う。今考えたら高校野球なんかより受験の方がよっぽどつら
いし、これから先だつてつらいことはもっとあると思う。しかし「高校野球2年半できた
んだから」と思えば、受験も乗り越えられたし、これから何かあったときも乗り越えられ
ると思う。

一度しかない高校生活。なにかしなくちゃもったいない。大学にきて高校時代に部活をや
ってなくてすごく後悔してるという人の話を聞いて本当に高校野球をやってよかったと思
った。すごく大きな2年半だった。

武藤直樹（29期生） 2009年卒業

筑波大学～青年海外協力隊 26年度2次隊

野球で国際協力も！

こんにちは。私は今、青年海外協力隊として「セネガル」という西アフリカの国に派遣
されています。職種は「理科教育」で、普段は学校で実験の指導・補助を行なっています。

青年海外協力隊には、様々な職種があります。その1つが「野球」。セネガルにも野球隊
員がいて、彼は、セネガル野球連盟の下で活動しています。私も時間が空いたときに、お
手伝いとして、セネガル人の練習に参加しています。そこで実感することは、「スポーツに
は言葉がいらぬ」ということです。

言葉の壁は大きく、普段の会話では、完全な意思疎通はなかなか実現しません。しかし、
野球をしているときは、私の語彙力でも全く問題ありません。現地の人々と一体感をもっ
て、楽しくプレーできます。そして練習後には、家に招かれたり、「次はいつ来るの？」と
言ってもらえたりします。

現在、世界中の国々に野球を指導する隊員がいます。私も、あくまでもお手伝いですが、
その一助を担っています。これも、中学、高校時代の野球経験によるものであり、「自分の
可能性」が広がったと確信しています。みなさんも、部活動を通じて「自分の可能性」を
広げてみると人生が豊かになるかもしれませんね。

田中 慎一 (25期生) 2005年卒業

国土舘大学～航空自衛隊

私が野球部に入ったきっかけは野球の投げたり打ったりする姿がかっこいいなあと思う程度の単純な理由からで、最初から野球を深く知っていてやる気に満ち溢れているという感じではなかったのを覚えています。そうして始めた野球部でしたが、試合に勝つためには厳しい練習も必要です。「全力疾走・全員野球」チーム方針はこれで、常に全力。あの頃は試合も練習もひたすら全力疾走していました。

そうした厳しい練習の中、確かに苦しいこと辛いことたくさんありました。しかし、それに代わる多くのことも学びました。コミュニケーションの基本でもある挨拶、チームの中で自分の役割を考える力、自分には何が必要で何をすれば良いのか自己分析する目、さらにちょっとやそっとじゃ諦めない我慢強さを身に着けました。それに野球部を通して手に入れたものはそれだけではありません。

何よりも大切なもの。仲間です。

時にはレギュラーを競ったり、意見が衝突したりといろいろありもしましたが、厳しい環境を共に乗り越えることで、心から本音で話し合えるかけがいのない最高の仲間となりました。その関係は今も続いています。

私が社会人になり実感するのは世の中は甘くないということ。実際、せっかく仕事についてもすぐにやめてしまう人がたくさんいます。自分も正直、仕事で理不尽なことや嫌なこともたくさん経験しました。しかし野球部で得た考え方、経験、体力、仲間——。これらすべてが今の自分の柱になっています。

私は野球部での生活を通してあらゆる厳しさに耐えられる基礎を身に着けたように思います。確かに勉強をして自分のしたい仕事に就くことももちろん大事です。

しかし、自分に強く自信を持ち、あらゆる困難に立ち向かうための基礎を築くのも大事だと思います。

学生の皆さんにはまだピンと来ないことかもしれません。野球は奥が深く歴史もあり、多くの人に親しまれてきたスポーツです。野球を好きな人はもちろん野球は初めてだという人も、自分を変えたい、自信を持ちたいと思ったら野球をしてみるのはいかがでしょうか？学生時代のすべてをつぎ込むことになるかもしれません。

しかし、私にとってここ「清真学園野球部」で得たことはその価値があるように思います。

これを読んで野球部を知る良いきっかけになれば幸いです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

28期 袴塚 達也 (28期生) 2008年卒業

学習院大学 理学部 数学科 (硬式野球部) ~ 株式会社日立ソリューションズ
~ 株式会社日立製作所
システムエンジニア

清真学園野球部は、社会人としての基礎を作ってくれる部活です。私が特に感じたことは「挨拶、礼儀」と「考えて行動すること」です。

私は野球部に在籍した3年間で野球のスキルアップもしましたが、それ以上に挨拶、礼儀の大切さを教えてもらいました。野球部は他の生徒の模範となる行動をとるようにと指導を受けたことを思い出します。

野球の練習に関しても、自主練習の時間が多く自分に足りていないことを考え練習することができたと感じています。目標に向けて自分に足りないことを考え練習を行うことで効率よく自分の技術を上げることができました。最終的に目標には届きませんでしたが、夏の大会でベスト16に入ることができました。

社会人として「挨拶、礼儀」と「考えて行動すること」は最低限必要なスキルだと考えております。清真学園野球部では、高校3年間の充実した生活だけでなく社会人としての基礎も身に付く素晴らしい部活です。

石川 晃大 (30期) 2010年卒業

工学院大学 環境エネルギー化学科~
トーモク (株) 勤務

在校生・入学予定のみなさんこんにちは。清真学園高校野球部OBで30期生の石川晃大です。

私は清真学園高校を卒業後、工学院大学を経て一般企業に就職し、現在社会人2年目です。

高校野球のすばらしさは、単に心身が鍛えられるだけではなく、人間力が高まる点にあります。もちろんどの部活動に入部しても、一生懸命に活動すれば素晴らしい経験と仲間を得ることができるでしょうが、その中でも高校野球は単に競技そのものの実力の優劣を問うだけではなく、集団の中での規律や周囲の人間に対する敬意を特に重んじるため、その環境下に3年間身を置くことで、確実に人間的に成長できます。

さらに全国数多ある高校野球部の中でも、清真学園野球部のように文武両道を実行している高校は数少ないので、チーム全体の練習量は他校よりも劣りますが、それを補う個人の努力や工夫次第でチームは強くなっていくので、選手1人1人が大きな可能性とチャンスを持っています。

長い人生の中のたった3年間ですが、清真学園野球部で過ごす濃密な3年間は後の自分の人生の大きな礎となるので、皆さんも是非野球部に入部して、辻岡敦先生の指導のもと、熱く充実した日々を送ってください。

坂本 衛礼（27期生） 2007年卒業

学習院大学 ～ 自営業

私を実感している清真学園野球部の良さの一部を2点ご紹介します。

①文武両立ができる人間への成長

清真学園の部活動の決められた時間内で成果を得るには、効率良く練習を行い、一つ一つの練習や動きの意味を考えて行うことが大切になります。

それは、勉強にも通じます。勉強もいかに効率良く、いかにポイントを捉えて行うかが大切です。清真学園野球部の活動を一生懸命に取り組むことで、それらが身に付き、野球も勉強も向上することが可能です。

②卒業して終わりではない 一生の仲間と出会える

清真学園野球部の活動は本気です。だからこそ、辛い時や嬉しい時を共有できるからこそ、先生や仲間との絆は強く、心の底から信頼できる一生の仲間となります。私は卒業して約10年が経ちますが、アドバイスを下さる先生や、いつでも味方でいてくれる仲間との関係は続いています。

以上が私の考える清真学園野球部の良さの一部です。卒業後も幅広い世代が良い関係を築いていますので、一人でも多くの方が私達の仲間に加わってくれることを心より望んでいます。

内野大輝（34期） 2014年卒業

静岡大学 在学中

清真学園の野球は高校野球の原点でもある全力プレーの野球であります。たとえ格上の相手でも、点差を離された逆境でも、チーム全体が一丸となった全員野球で、勝利をつかみ取ることができるのが魅力のチームです。そのようなチームに成長できるのはともに戦っておられる素晴らしい指導者の存在があるからだと思います。全員が同じ目標を持ち、自分が何をすべきか考え、やるべきことを全力で実行する。技術面での指導はもちろん、そんな精神面の熱い指導を一人一人にして下さいます。

また、野球部での3年間は選手としてだけでなく人間としても成長させてくれます。本気で勝負をしている以上、ときには壁にぶつかることもあるでしょう。しかしその壁を乗り越えた経験はその先の人生においても大きな財産となるはずです。そしてその中で苦楽を共にした仲間、仲間と過ごした時間、勝利を掴み取り校歌を歌ったときの感動が一生の宝となることは間違いありません。

私も一人の高校野球ファンとして、OBとして、皆さんが清真学園のユニフォームを着て多くの人々に感動を与える存在になることを期待しております

伊藤豊（24期生） 2004年卒業

日本体育大学 体育学部体育学科（硬式野球部）～

横浜市消防局西消防署浅間町消防出張所

現在、私の土台となっているものは清真学園野球部での6年間です。この6間は私にとって一生の財産となっている事は間違いありません。なぜなら、野球の知識や技術を教わるだけではなく、礼儀、人を敬う心や仲間への思いやり、物を大切にすること等も学ぶことが出来たからです。「選手」としてだけではなく、社会に出て通用する「人」としても育てて頂きました。そして何よりも、恩師と呼べる先生方と出会えた事、卒業してから12年経った今でも、昔話を交えてバカ話して一緒に笑い合える苦楽を共にした仲間がいる事が一番の財産です。大学へ進学しても、社会人になっても、先生方や仲間を支えられ、乗り越える事が出来ました。先生方には怒られてばかりだったのですが、不思議と嫌な思い出にならず、今では笑い話しになり良い思い出として残っているものです（笑）。

もちろん、勝つために練習に取り組んでいるので厳しい時もあるとは思いますが、「野球人」として、また、一人の「人」として、教科書では学べないような事まで学べる清真学園野球部で6年間又は3年間、自分を成長させてみてはいかがでしょうか？

大竹聡史（28期生） 2008年卒業

中央大学～ システムエンジニア

率直に申し上げたいのは、高校野球を経験すれば、今後の人生の中でプラスになることが多いです。

一つ目は、学内外問わず、数百人規模で応援いただく経験をできるということです。高校卒業して数年経過した現在でも、それを超えることはなく、今後もないでしょう。この経験から、私は何事にも一生懸命取り組めば、必ず良いことが返ってくることを学びました。

清真学園野球部は、文武両道のもと、限られた時間で練習しています。その中で他校に負けない練習をするのは、困難ですが、早朝や昼休みに時間を作るなど工夫し、練習を行いました。その一生懸命な姿勢から、学内外問わず応援されるようになり、最後の大会では、数百人規模で応援いただき、貴重な経験ができました。

二つ目は、かけがえのない仲間を手に入れることができます。大人になって短い付き合いが多くありますが、高校野球部の仲間は毎年1回集まっています。苦楽を共にした仲間と昔話に花を咲かせ、他愛もない話をする事で、刺激となり、より充実した日々を送れています。

最後に、仲間と一緒に目標に向かって一生懸命頑張ることは、素晴らしいことだと思うし、中高生にしかできません。その選択肢の中で野球部を選んでいただけることをOBとして祈っています。